

令和7年2月4日

政務活動費成果届出書

届出者 小出 義一

○使途項目（○をつける） 調査研究 研修 広報・資料作成・資料購入

○タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

○目的（計画書の目的欄をそのまま記載）

歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会では、設置目的である「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討」について、日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師として招き、勉強会を開催する。本勉強会で得た知見を基に、効果的な市政への提言を行い、歴史・文化を活用したまちづくりの推進につなげる。

○結果（目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

歴史と文化を活用する上で大切にすべき事柄を確認できた。主なところは以下の通りです。

- ・過疎化や少子高齢化を背景に文化財の滅失や散逸などの防止が喫緊の課題。改正文化財保護法では、未指定を含めた文化財をまちづくりの核として社会総掛かりで継承に取り組んで行くことを目指している。
- ・地域の風土に根ざし受け継がれている伝承・風習などを踏まえたストーリーの基に「面」として活用できるパッケージ化を行い、地域ブランド力の向上に繋がる計画が必要。
- ・文化財保存活用地域計画の策定には、上位計画との連動や全庁的な取組を可能にするグランドデザインが必要。

○提言（半田市に対し、何をどう活用するか。）

先人から受け継いでいる「歴史・文化」を地域の魅力として活用する計画にするために、保存する範囲と策定の目標を明確にして下さい。そのうえで、上位計画との連動や全庁的な取組を可能にするグランドデザインを描いて下さい。

○その他（その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）



○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

氏名: 小出義一

日にち	時 間	内 容	金額 (円)	領収書 No.
1/28	10:00～ 12:00	日本福祉大学経済学部教曲 田浩和氏に歴史・文化を活 用したまちづくりについ てを講義していただくも の。	講師謝礼 25,000 円	
		25,000 円を12名で按分 ※端数(4円)は、代表が負 担する。 ※12名のうち、1名は自 己負担による参加のため、 政務活動費は交付しない。	25,000 円 ÷12名 代表(1名) <u>2,087円</u> 代表者以外(12 名) 2,083円	①

令和7年2月4日

領収書等貼付用紙

議員名 小出 義一

タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

1枚中

1枚目

※報告書における領収書 No. が分かるように貼り付けること。

①

領 収 書

金 25,000 円 也

但し、令和7年1月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和7年1月28日

半田市議会議員

代表 小出 義一 他 11名 様

講師

曲田 浩和

代表者: 2,087円, 代表者以外: 2,083円

令和7年2月4日

政務活動費成果届出書

届出者 伊藤 正興

○使途項目（○をつける） 調査研究 （研 修） 広 報・資料作成・資料購入

○タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

○目 的 （計画書の目的欄をそのまま記載）

歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会では、設置目的である「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討」について、日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師として招き、勉強会を開催する。本勉強会で得た知見を基に、効果的な市政への提言を行い、歴史・文化を活用したまちづくりの推進につなげる。

○結 果 （目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

文化財保存活用地域計画は半田市としての地域性が重要であり、教育委員会だけでなく観光や まちづくりなど一体化した取り組みを考えることが必要。
地域内の未指定文化財や文化財に相当するものの発掘、把握が必用である。まずは網をかけ候補→登録→文化財と進める。文化財保存活用地域計画の作成にあたり、今後の人口減少をどのように考慮すべきか検討が必要である。
文化財保存活用地域計画の策定のご苦勞を伺うことができ、目標を達することが出来ました。

○提 言 （半田市に対し、何をどう活用するか。）

文化財保存活用地域計画を作成する。
地域の現状を把握し歴史・文化を活用した半田らしいまちづくりを進める。

○その他 （その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）



○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

氏名: 伊藤正興

日にち	時 間	内 容	金額 (円)	領収書 No.
1/28	10:00~ 12:00	日本福祉大学経済学部教曲 田浩和氏に歴史・文化を活 用したまちづくりについ てを講義していただくも の。	講師謝礼 25,000 円	
		25,000 円を12名で按分 ※端数(4円)は、代表が負 担する。 ※12名のうち、1名は自 己負担による参加のため、 政務活動費は交付しない。	25,000 円 ÷12名 代表(1名) 2,087円 代表者以外(12 名) <u>2,083円</u>	①

令和7年2月4日

領収書等貼付用紙

議員名： 伊藤正興

タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

1枚中

1枚目

※報告書における領収書 No. が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

金 25,000 円 也

但し、令和7年1月28日開催 半田市議会議員勉強会の～
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和7年1月28日

半田市議会議員

代表 小出 義一 他 11名 様

講師

曲田 浩和

代表：2,087 円、代表以外：2,083 円

令和7年2月4日

政務活動費成果届出書

届出者 芳金 秀展

○使途項目（○をつける） 調査研究 （研修） 広報・資料作成・資料購入

○タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

○目 的 （計画書の目的欄をそのまま記載）

歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会では、設置目的である「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討」について、日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師として招き、勉強会を開催する。本勉強会で得た知見を基に、効果的な市政への提言を行い、歴史・文化を活用したまちづくりの推進につなげる。

○結 果 （目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

改めて文化財保存活用について、体系立てて知ることができた。学んだことは以下です。

- ・日本遺産の認定にはストーリーが必要。半田市は過去に申請するも至らず。
- ・文化財保存活用地域計画には、未指定も入れたアウトラインとストーリーが必要。
- ・歴史文化を活かしたまちづくりのグランドデザインが必要。
- ・課題は行政内部と地域住民の理解。保存と活用は時に反する。
- ・新美南吉が偉いのではなく、何をしたかが大事。
- ・半田市は他分野のものが多く集まっている。中核は山車蔵南吉赤レンガになるのではないか。
- ・ストーリーを考えるうえでは、産業の歴史からつながる史実を考慮してもよい。例えば、江戸時代の酒税の高騰を起点にして、敷島製パンの起こりにつながり、パン職人から最終的に神戸につながるなど。

○提 言 （半田市に対し、何をどう活用するか。）

- ・まずは、本計画を策定する上での目的を設定してください。
- ・保存ありきではなく、どのように活用していくかという点で、教育行政だけでなく市民経済部や企画部、また子ども未来部も入れて活用を考えてください。
- ・ストーリーは市内に限らず、知多半島や国内に繋げていくことも検討してください。

○その他 （その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）

- ・比較的新しいエリアである青山地区もすでに50年の歴史がある。そういった点も着目し、展開していくのもよい。



○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

氏名: 芳金秀展

日にち	時 間	内 容	金額 (円)	領収書 No.
1/28	10:00~ 12:00	日本福祉大学経済学部教曲 田浩和氏に歴史・文化を活 用したまちづくりについ てを講義していただくも の。	講師謝礼 25,000 円	
		25,000 円を12名で按分 ※端数(4円)は、代表が負 担する。 ※12名のうち、1名は自 己負担による参加のため、 政務活動費は交付しない。	25,000 円 ÷12名	代表(1名) 2,087円 代表者以外(12 名) <u>2,083円</u>
				①

令和7年2月4日

領収書等貼付用紙

議員名： 芳金秀展

タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

1枚中

1枚目

※報告書における領収書 No. が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

金 25,000 円 也

但し、令和7年1月28日開催 半田市議会議員勉強会の～
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和7年1月28日

半田市議会議員

代表 小出 義一 他 11名 様

講師

曲田 浩和

代表：2,087 円、代表以外：2,083 円

令和7年2月4日

政務活動費成果届出書

届出者 鈴木 英華

○使途項目（○をつける） 調査研究 研修 広報・資料作成・資料購入

○タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

○目的（計画書の目的欄をそのまま記載）

歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会では、設置目的である「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討」について、日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師として招き、勉強会を開催する。本勉強会で得た知見を基に、効果的な市政への提言を行い、歴史・文化を活用したまちづくりの推進につなげる。

○結果（目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

文化財に係るストーリー性の重要性など、県外視察と重複する内容もあったが、半田市が持つ文化をいかに文化財保存活用地域計画に落とし込むかが地域性の説明なども踏まえてわかりやすかった。

○提言（半田市に対し、何をどう活用するか。）

- ・文化財保存活用地域計画を策定する際にワークショップなどの手法をとって地域の声を聞く
- ・文化財の洗い出しとそこにまつわるストーリーを裏付ける
- ・古文書の整理をする
- ・多世代の市民がさらに半田市に愛着を持てるような文化財の存在が観光資源としてあることを再認識できるような取り組みをする

○その他（その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）



○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

氏名: 鈴木英華

日にち	時 間	内 容	金額 (円)	領収書 No.
1/28	10:00～ 12:00	日本福祉大学経済学部教曲 田浩和氏に歴史・文化を活 用したまちづくりについ てを講義していただくも の。	講師謝礼 25,000 円	
		25,000 円を12名で按分 ※端数(4円)は、代表が負 担する。 ※12名のうち、1名は自 己負担による参加のため、 政務活動費は交付しない。	25,000 円 ÷12名	代表(1名) 2,087円 代表者以外(12 名) <u>2,083円</u> ①

令和7年2月4日

領収書等貼付用紙

議員名： 鈴木英華

タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

1枚中

1枚目

※報告書における領収書 No. が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

金 25,000 円 也

但し、令和7年1月28日開催 半田市議会議員勉強会の～
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和7年1月28日

半田市議会議員

代表 小出 義一 他 11名 様

講師

曲田 浩和

代表：2,087 円、代表以外：2,083 円

令和7年2月4日

政務活動費成果届出書

届出者 田中 嵩久

○使途項目（○をつける） 調査研究 研修 広報・資料作成・資料購入

○タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

○目的（計画書の目的欄をそのまま記載）

歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会では、設置目的である「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討」について、日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師として招き、勉強会を開催する。本勉強会で得た知見を基に、効果的な市政への提言を行い、歴史・文化を活用したまちづくりの推進につなげる。

○結果（目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

・今回の研修を通して、現在の方向性に対して間違いではないことを把握することが出来たため、目的は達成できました。
・「何のためにつくるのか」の目的意識が重要だということを改めて確認できました。単に計画を基にした補助金を得るためのものではなく、地域の方々のシビックプライドの醸成や地域の価値を再認識し、引き継ぐ文化をどのように活用するのかの検討を進めていく必要があります。
・また、歴史的なものを守る場合、市の財政として守り続けられるかの視点も重要だが、歴史的、文化的に貴重もしくは希少性の高いものについては、様々な補助メニューも検討しながら、守るという決断が出来るような専門家の知見も交えた意見交換が重要だということが分かりました。

○提言（半田市に対し、何をどう活用するか。）

現在検討している提言内容で網羅出来ているため、新たに提言する内容は有りません。

○その他（その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）



○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

氏名: 田中 嵩久

日にち	時 間	内 容	金額 (円)	領収書 No.
1/28	10:00～ 12:00	日本福祉大学経済学部教曲 田浩和氏に歴史・文化を活 用したまちづくりについ てを講義していただくも の。	講師謝礼 25,000 円	
		25,000 円を12名で按分 ※端数(4円)は、代表が負 担する。 ※12名のうち、1名は自 己負担による参加のため、 政務活動費は交付しない。	25,000 円 ÷12名 代表(1名) 2,087円 代表者以外(12 名) <u>2,083円</u>	①

令和7年2月4日

領収書等貼付用紙

議員名： 田中 嵩久

タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

1枚中

1枚目

※報告書における領収書 No. が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

金 25,000 円 也

但し、令和7年1月28日開催 半田市議会議員勉強会の～
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和7年1月28日

半田市議会議員

代表 小出 義一 他 11名 様

講師

曲田 浩和

代表：2,087 円、代表以外：2,083 円

令和7年2月4日

届出者 山田清一

政務活動費成果届出書

○使途項目 (○をつける) 調査研究 研修 広報・資料作成・資料購入
○タイトル 文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

○目的 (計画書の目的欄をそのまま記載)

歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会では、設置目的である「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討」について、日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師として招き、勉強会を開催する。本勉強会で得た知見を基に、効果的な市政への提言を行い、歴史・文化を活用したまちづくりの推進につなげる。

○結果 (目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。)

- ・文化財保存活用地域計画は、単なる文化財の「保存」だけでなく、地域活性化や観光振興など「活用」を重視することが重要であることを学んだ。
 - ・文化財を地域のアイデンティティ形成や経済活性化の原動力とするため、地域全体で一体的な取り組みが求められる。
 - ・2018年の文化財保護法改正により、未指定文化財も含めた総合的な文化財の把握が必要となったことを理解した。
 - ・文化財群を単体ではなく、地域の歴史的背景や伝承と結び付けた「ストーリー」で魅力を伝えることが有効であると認識した。
 - ・ストーリーを活用することで、観光資源としての魅力が高まり、地域ブランディングにも寄与する。
 - ・行政内部の連携不足や、文化財活用に対する部局間の理解の違いが課題として挙げられた。
 - ・地域住民の文化財に対する理解不足や関心の格差も課題であり、住民参加型の取り組みが必要であると確認した。
 - ・行政、住民、民間が一体となって、地域固有の文化財を次世代へと継承し、持続可能な地域社会の発展を目指すことが求められる。
- 提言 (半田市に対し、何をどう活用するか。)

3. 提言事項

- ・文化財保存活用地域計画を早期策定し、補助金申請や行政支援の基盤を確立する。
 - ・地域の歴史や伝承、景観なども文化財として再評価し、未指定文化財の把握ならびに調査・研究をする。
 - ・文化財の歴史的背景や地域独自の伝承を織り交ぜたストーリーを策定し、観光資源としての魅力向上を図る。
 - ・学校教育や地域イベントに文化財を取り入れることで、地域住民や次世代への意識啓発を推進する。
 - ・ワークショップや住民説明会を定期的に行い、文化財保護の意義や具体的な活用方法について地域全体で議論する場を設け、地域への誇りと愛着を醸成する。
 - ・縦割り行政の課題を克服し、文化財保護とまちづくり、観光、教育など各分野が連携する体制を整備する必要がある。
 - ・補助金だけでなく、クラウドファンディングや企業協賛など、多様な資金調達方法を検討する。
- その他 (その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。)

○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

氏名：山田清一

日にち	時 間	内 容	金額 (円)	領収書 No.
1/28	10:00～ 12:00	日本福祉大学経済学部教曲 田浩和氏に歴史・文化を活 用したまちづくりについ てを講義していただくも の。	講師謝礼 25,000 円	
		25,000 円を12名で按分 ※端数(4円)は、代表が負 担する。 ※12名のうち、1名は自 己負担による参加のため、 政務活動費は交付しない。	25,000 円 ÷12名	代表(1名) 2,087円 代表者以外(12 名) <u>2,083円</u>
				①

令和7年2月4日

領収書等貼付用紙

議員名： 山田清一

タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

1枚中

1枚目

※報告書における領収書 No. が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

金 25,000 円 也

但し、令和7年1月28日開催 半田市議会議員勉強会の～
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和7年1月28日

半田市議会議員

代表 小出 義一 他 11名 様

講師

曲田 浩和

代表：2,087 円、代表以外：2,083 円

令和7年2月4日

政務活動費成果届出書

届出者 麻生七海

○使途項目（○をつける） 調査研究 （研修） 広報・資料作成・資料購入

○タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

○目的（計画書の目的欄をそのまま記載）

歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会では、設置目的である「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討」について、日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師として招き、勉強会を開催する。本勉強会で得た知見を基に、効果的な市政への提言を行い、歴史・文化を活用したまちづくりの推進につなげる。

○結果（目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

文化財保存活用地域計画の協議会委員の経験者の視点から様々な角度での講演大変参考になりました。

○提言（半田市に対し、何をどう活用するか。）

半田市の持つ歴史・文化や産業を全面に出した都市宣言（観光産業）を行い、半田に行かなければ経験できないと言った印象を全国に発信願います。

○その他（その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）

成功事例で紹介のありました、昭和の街並みを売りにする豊後高田市は海山の自然と子育て・教育支援も充実させ人口3万人以下の自治体で4年連続住みたい田舎第一位に輝き、事実年間300人以上が移住し人口が増え続けています。



○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

氏名: 麻生七海

日にち	時 間	内 容	金額 (円)	領収書 No.
1/28	10:00～ 12:00	日本福祉大学経済学部教曲 田浩和氏に歴史・文化を活 用したまちづくりについ てを講義していただくも の。	講師謝礼 25,000 円	
		25,000 円を12名で按分 ※端数(4円)は、代表が負 担する。 ※12名のうち、1名は自 己負担による参加のため、 政務活動費は交付しない。	25,000 円 ÷12名	代表(1名) 2,087円 代表者以外(12 名) <u>2,083円</u>
				①

令和7年2月4日

領収書等貼付用紙

議員名： 麻生七海

タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

1枚中

1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

金 25,000 円 也

但し、令和7年1月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和7年1月28日

半田市議会議員

代表 小出 義一 他 11名 様

講師

曲田 浩和

代表：2,087円、代表以外：2,083円

令和7年2月4日

政務活動費成果届出書

届出者 加藤 美幸

○使途項目（○をつける） 調査研究 （研修） 広報・資料作成・資料購入

○タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

○目的（計画書の目的欄をそのまま記載）

歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会では、設置目的である「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討」について、日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師として招き、勉強会を開催する。本勉強会で得た知見を基に、効果的な市政への提言を行い、歴史・文化を活用したまちづくりの推進につなげる。

○結果（目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

・日本福祉大学知多半島総合研究所においての研究や、半田市文化財専門員としての知見、南知多町においての文化財保存活用地域計画の委員としての経験から、半田市の歴史文化の魅力や、計画策定に向けた、より具体的な講義をしていただきました。

○提言（半田市に対し、何をどう活用するか。）

- ・歴史や文化財のストーリー性を重視すべきである。
- ・歴史文化を生かしたまちづくりのグランドデザインを明確にすべきである。
- ・文化財保存活用地域計画を策定した後、産業観光都市宣言につなげるべきでないか。

○その他（その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）



○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

氏名: 加藤美幸

日にち	時 間	内 容	金額 (円)	領収書 No.
1/28	10:00～ 12:00	日本福祉大学経済学部教曲 田浩和氏に歴史・文化を活 用したまちづくりについ てを講義していただくも の。	講師謝礼 25,000 円	
		25,000 円を12名で按分 ※端数(4円)は、代表が負 担する。 ※12名のうち、1名は自 己負担による参加のため、 政務活動費は交付しない。	25,000 円 ÷12名 代表(1名) 2,087円 代表者以外(12 名) <u>2,083円</u>	①

令和7年2月4日

領収書等貼付用紙

議員名：加藤美幸

タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

1枚中

1枚目

※報告書における領収書 No. が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

金 25,000 円 也

但し、令和7年1月28日開催 半田市議会議員勉強会の～
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和7年1月28日

半田市議会議員

代表 小出 義一 他 11名 様

講師

曲田 浩和

代表：2,087 円、代表以外：2,083 円

令和7年2月4日

政務活動費成果届出書

届出者 榊原瑞輝

○使途項目（○をつける） 調査研究 研修 広報・資料作成・資料購入

○タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

○目的（計画書の目的欄をそのまま記載）

歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会では、設置目的である「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討」について、日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師として招き、勉強会を開催する。本勉強会で得た知見を基に、効果的な市政への提言を行い、歴史・文化を活用したまちづくりの推進につなげる。

○結果（目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

達成できた。

半田の歴史文化を活用した街づくりを推進していくために必要な視点、考え方がよく分かった。

又文化財保存活用地域計画を立てる上での調査や未指定の文化財、指定文化財のそれぞれの調査、取り扱いの方法、注意点、問題点などについて学ぶことができた。

特に重要なのは、街づくりのグランドデザインがしっかりできていること。

地域住民の理解がしっかり出来ていることの2点である。

○提言（半田市に対し、何をどう活用するか。）

庁内の課をまたいだ連携と協力、及び地域の住民の思いとプライドをくみ取ったうえでの住民理解を得ることが必要。

○その他（その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）

すべてを自前で行うことは膨大な時間と多くの職員の負担となることを考えると、財源が限られた中で、外部委託をする際は何をお願いして、何を自分たちで行うのかしっかり考える必要がある



○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

氏名: 榊原瑞輝

日にち	時 間	内 容	金額 (円)	領収書 No.
1/28	10:00~ 12:00	日本福祉大学経済学部教曲 田浩和氏に歴史・文化を活 用したまちづくりについ てを講義していただくも の。	講師謝礼 25,000 円	
		25,000 円を12名で按分 ※端数(4円)は、代表が負 担する。 ※12名のうち、1名は自 己負担による参加のため、 政務活動費は交付しない。	25,000 円 ÷12名 代表(1名) 2,087円 代表者以外(12 名) <u>2,083円</u>	①

令和7年2月4日

領収書等貼付用紙

議員名：榊原瑞輝

タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

1枚中

1枚目

※報告書における領収書No.が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

金 25,000 円 也

但し、令和7年1月28日開催 半田市議会議員勉強会の～
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和7年1月28日

半田市議会議員

代表 小出 義一 他 11名 様

講師

曲田 浩和

代表：2,087 円、代表以外：2,083 円

令和7年2月4日

政務活動費成果届出書

届出者 岩田玲子

○使途項目（○をつける） 調査研究 研修 広報・資料作成・資料購入

○タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

○目的（計画書の目的欄をそのまま記載）

歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会では、設置目的である「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討」について、日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師として招き、勉強会を開催する。本勉強会で得た知見を基に、効果的な市政への提言を行い、歴史・文化を活用したまちづくりの推進につなげる。

○結果（目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

達成できた。

- ・計画には、ストーリー(物語)をいかに出していくかが重要である。
- ・計画には未指定文化財を入れたアウトラインが必要である。
- ・町に文化財があふれることは心地よい景観を生む⇒散歩とポイント。
- ・美術博物館を作ってはどうか。
- ・マメポ(岡崎市のウオーキングアプリ)のような史跡・歴史めぐりウオーキングアプリを活用し歴史物語をめぐることがよい。
- ・観光やまちづくり、文化財関係者、神社、仏閣、南吉、山車等の関係者と協力できるとよい。

○提言（半田市に対し、何をどう活用するか。）

- ・岡崎市の「まめぽ」のような、史跡、歴史めぐりウオーキングアプリ等を活用し、ストーリーを楽しんで回りながら歩き、スタンプを集めたり、歩く動機付けを作りながら活用していくことが望ましい。
- ・未指定文化財をいれた、アウトラインの必要性和、物語を作っていくことが大切である。
- ・住民の声を聞きながらすすめることが望ましい。（観光、町づくり、文化財関係者、神社、仏閣、南吉、山車関係者等）

○その他（その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）



○実績（別紙に領収書を添付すること）

氏名： 岩田玲子

日にち	時 間	内 容	金額（円）	領収書 No.
1/28	10:00～ 12:00	日本福祉大学経済学部教曲 田浩和氏に歴史・文化を活 用したまちづくりについ てを講義していただくも の。	講師謝礼 25,000 円	
		25,000 円を12名で按分 ※端数（4円）は、代表が負 担する。 ※12名のうち、1名は自 己負担による参加のため、 政務活動費は交付しない。	25,000 円 ÷12名	代表（1名） 2,087円 代表者以外（12 名） <u>2,083円</u>
				①

令和7年2月4日

領収書等貼付用紙

議員名：岩田玲子

タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

1枚中

1枚目

※報告書における領収書 No. が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

金 25,000 円 也

但し、令和7年1月28日開催 半田市議会議員勉強会の～
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和7年1月28日

半田市議会議員

代表 小出 義一 他 11名 様

講師

曲田 浩和

代表：2,087 円、代表以外：2,083 円

令和7年2月4日

政務活動費成果届出書

届出者 坂井 美穂

○使途項目（○をつける） 調査研究 研修 広報・資料作成・資料購入

○タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

○目 的 （計画書の目的欄をそのまま記載）

歴史・文化を活用したまちづくり調査特別委員会では、設置目的である「歴史・文化の保存計画から活用方法の検討」について、日本福祉大学経済学部教授の曲田浩和氏を講師として招き、勉強会を開催する。本勉強会で得た知見を基に、効果的な市政への提言を行い、歴史・文化を活用したまちづくりの推進につなげる。

○結 果 （目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

多くの歴史と文化財を所有する、ポテンシャルのある半田市。文化財の魅力を自分たちが知り、実感した上で、上手く発信することで、半田市の魅力アップにつながり、まちの持続可能性につながる。今、文化財保存活用地域計画の作成に着手しなければ、文化財の活用ができず、やがて文化財の保存もできなくなり、ポテンシャルも今後の半田市の持続可能性もなくなってしまうということが分かった。行政、市民、専門家で協議し、今からグランドデザインを作れば、歴史や文化財をまちづくりに活用することができる。

○提 言 （半田市に対し、何をどう活用するか。）

- ・文化財の背景にある歴史を紐解き、そこにどんな魅力があるのかを発掘し、ストーリーにすることで、まちの魅力アップと持続可能性につながる。という価値観を市内の共通認識とすること。
- ・文化財保存活用地域計画の中身（グランドデザイン）をどうするか、を検討するにあたり、まずは半田市が持っている一つ一つの文化財（資源）の魅力について、具体的な活用の展開をイメージすること。
- ・その土地の食文化やそのストーリーに触れることを目的とした観光である「ガストロノミーツーリズム」は、観光課によって推進している。同様に文化財の活用もストーリーに触れることで魅力を感じるように仕立てる。昔はモノ消費、現在はコト消費に移行している。「醸造・発酵食×歴史と文化財」の組み合わせで魅力が向上するなど、他の事業との相乗効果を検討すること。

○その他 （その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）



○実 績 (別紙に領収書を添付すること)

氏名： 坂井美穂

日にち	時 間	内 容	金額 (円)	領収書 No.
1/28	10:00～ 12:00	日本福祉大学経済学部教曲 田浩和氏に歴史・文化を活 用したまちづくりについ てを講義していただくも の。	講師謝礼 25,000 円	
		25,000 円を12名で按分 ※端数(4円)は、代表が負 担する。 ※12名のうち、1名は自 己負担による参加のため、 政務活動費は交付しない。	25,000 円 ÷12名	代表(1名) 2,087円 代表者以外(12 名) <u>2,083円</u>
				①

令和7年2月4日

領収書等貼付用紙

議員名：坂井美穂

タイトル

文化財保存活用地域計画に基づいた歴史・文化を活用したまちづくりについて

1枚中

1枚目

※報告書における領収書 No. が分かるように貼り付けること。

領 収 書

①

金 25,000 円 也

但し、令和7年1月28日開催 半田市議会議員勉強会の
講師謝金として、上記金額領収いたしました。

令和7年1月28日

半田市議会議員

代表 小出 義一 他 11名 様

講師

曲田 浩和

代表：2,087 円、代表以外：2,083 円